

人事が抱える構造的問題の解決法

～フレームワーク活用の応用例に学ぶ～

株式会社せんだ兄弟社 代表取締役 専田 政樹

■ なぜ現場で活用できないのか

急激に変化する社会環境のなか、人事部門は様々な問題を抱えています。弊社でも多様なご相談を受けておりますが、その対応にはコンサルタントとして蓄積した経験だけではなく、中小企業診断士として習得したビジネスフレームワークの応用が欠かせません。

一方で、フレームワークを学んではいるが、理論通りにはいかない…という意見が散見されます。有効性がある程度立証されているからこそ、ビジネス理論として成立し、世の中に広がっているわけですが、実際に自身の業務でやってみたところ「いまいちピンとこない」という感想が多いのも事実です。

なぜそうになってしまうのか。その原因にはフレームワークが理論として成立するまでの過程にあると私は考えています。→

目次

1. 社会の変化と人事部門が抱える問題

- 1.1 コロナ前、すでに迫っていた危機
- 1.2 Withコロナ時代の到来
- 1.3 コロナ禍で埋もれた重要課題
- 1.4 企業が勝ち残るための人事の仕事

2. 人事部門に求められる問題解決力

- 2.1 問題解決のスキルとは
- 2.2 ロジックツリーの実践活用ポイント

3. 人事の問題解決のためのフレームワーク活用の応用例

- 3.1 問題の構造化と課題抽出ステップ
- 3.2 問題の分析および課題化ステップ



● 専田 政樹 (せんだ まさき) 1975年生まれ / 45歳

株式会社せんだ兄弟社 代表取締役 / 中小企業診断士 著書『働き方改革時代の若手部育成術』7&iグループ出身。職種の異なる専門職集団のマネジメントを経て、事業会社の管理部門長へ。2014年に資格取得し、翌年独立。2017年社会保険労務士の兄とともに企業の人に関する悩みをワンストップ支援すべく法人化。コンサルティング業務（人事評価制度構築、業務改善等）を行う傍ら、企業研修による人材育成分野に力を注ぎ、登壇日数は年100日を超える。特に若手育成には定評があり、教育体制構築支援も行っている。人材育成をテーマにオンラインセミナーを展開中。

住所：東京都中央区築地2-15-15 セントラル東銀座619号 TEL：03-3545-6686
HP：https://kyodaisha.com/ Email：info@kyodaisha.com